



津高一《季》1960年代頃 本館蔵

# 美をつくし

vol. 196

大阪市立美術館だより  
令和3年9月1日発行

MI WO TSUKUSHI  
WI MO IZUKUSHI

# 千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子 日出づる処の天子

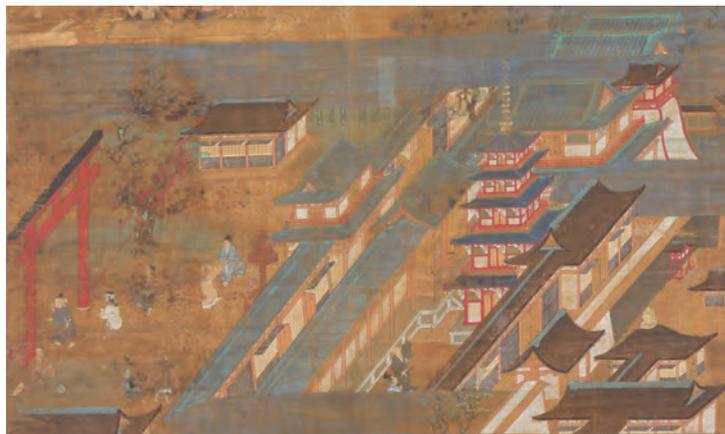
2021年9月4日(土)―10月24日(日)



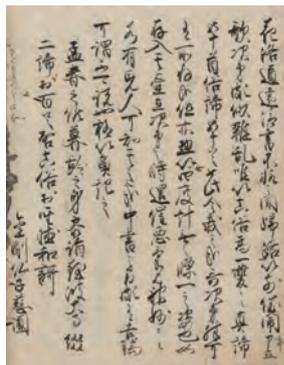
B



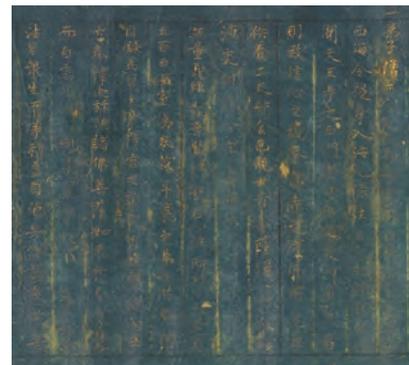
C



A



F



G



D



E



H



I

令和4年(2022)、聖徳太子(574～622)が没して1400年を迎えます。100年に一度の節目にあわせ、太子の生涯をたどり、没後の太子信仰の広がりをご紹介します展覧会を開催します。

太子は推古天皇の摂政として十七条憲法の制定や遣隋使の派遣など国家体制の確立に大きく貢献したことで知られます。さらに、四天王寺や法隆寺の創建に代表されるように仏教を篤く信奉し日本仏教の礎を築きました。

本展覧会では太子信仰の中核を担ってきた四天王寺の宝物を中心に、太子ゆかりの美術をご紹介します。

(石川温子)

### 〈展覧会の構成〉

- 第1章 聖徳太子の生涯－太子の面影を追って
- 第2章 聖徳太子信仰の広がり－宗派を超えて崇敬される太子
- 第3章 大阪・四天王寺の1400年－太子が建立した大寺のあゆみ
- 第4章 御廟・叡福寺と大阪の聖徳太子信仰－太子が眠る地
- 第5章 近代以降の聖徳太子のイメージ…そして未来へ―つながる祈り



J

- A 重要文化財「聖徳太子絵伝」第6幅 鎌倉時代・14世紀 愛知・本證寺(画像提供:安城市歴史博物館)
- B 「旧最高裁判所大法廷壁画 小下絵のうち 聖徳太子憲法宣布」堂本印象筆 昭和26年(1951) 京都府立堂本印象美術館
- C 「夢中顯現聖徳太子曼荼羅図」部分 室町時代・15世紀 愛知・西照寺
- D 「聖徳太子童形立像(槍髪太子)」及び重要文化財「採漆厨子」(太子像) 鎌倉時代・13-14世紀 〈厨子〉室町時代・永享8年(1436) 兵庫・鶴林寺
- E 重要文化財「救世観音半跏像」鎌倉時代・寛元4年(1246) 京都・三千院
- F 「拾玉集」巻第3「難波百首」部分 慈円[詠]・尊円親王[撰] 室町時代・文明3年(1471) 京都・青蓮院
- G 「供養目録」(西念所持四天王寺西門浄土信仰関連資料)部分 平安時代・保延6年(1140) 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives
- H 重要文化財「聖徳太子絵伝」第13面 部分 狩野山楽筆 江戸時代・元和9年(1623) 大阪・四天王寺
- I 「聖徳太子坐像」佐藤朝山作 大正8年(1919) 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives
- J 「鳳輦」および「聖徳太子童形半跏像」松久宗琳佛所作 〈鳳輦〉江戸時代・17世紀 〈太子像〉令和3年(2021) 大阪・四天王寺

## 仏弟子としての自覚 — 日本の摩訶迦葉・慈雲尊者飲光

ゴータマ・シッダールタ(釈迦)は、紀元前5世紀ころインド北部に生まれ、80年の生涯で説いたその教えが現在にまで生き続ける稀有な存在である。この偉大なブッダが滅した後、次に悟りを開くのは兜率天にいます弥勒菩薩で、56億7千万年後という遠い未来だという。そこまで先だと、日本列島はおろか太陽系の寿命すら危ぶまれる想像もつかないスケールの話である。悟りを開いた方には是非みえたいし、お話も伺ってみたいものだが、とても待つことなどできない。辺土たる列島人は仏教伝来以来その教えに直接触れることのできない無仏時代を生きることになる。

さて、ここで紹介したいのは、ある僧侶の名前にまつわる問題である。この辺土で愚直なまでに仏弟子であることを自任したその僧は、釈迦在世時の言語や袈裟を研究し、正しい戒律の復興を目指した。無仏時代にあつて、弥勒当来まで仏法を伝えるためである。

その僧とは慈雲尊者飲光である。慈雲は享保三年(1718)大坂・中之島の高松藩蔵屋敷に生まれた近世大坂を代表する名僧である。その正法律とよぶ釈迦在世時の戒律を復興しようとする運動とともに、書家としてもあるいは大坂町人に愛された『十善法語』の著者としても著名であること、わざわざ申し添える必要もなからう。

その慈雲の署名や落款印は様々であるが、一例に当館寄託品から紙本墨書《満足》を挙げておこう(図1)。落款印として朱文方印「慈雲」と白文方印「<sup>びっしゅ かいじゅう</sup>苾芻迦撰波」(図2)を捺す。このように慈雲は「迦撰波」「梵音迦葉此云亀氏」等同様の印を多種用いており、漢字・梵字で「迦撰波」と署名することがある。この迦撰波とは、釈迦の十大弟子のうち頭陀第一と称された高弟・摩訶迦葉波(迦撰波)のことで、仏滅後には第一結集を主宰し僧団の引き締めにあたったこと、釈迦より衣鉢を受け継ぎ弥勒当来を待つことは周知のことであろう。

なぜ、慈雲は迦葉を名乗るのか。唐・慧琳の『一切経音義』には「大飲光は即ち大迦葉波の美称也」とか「迦葉波、此飲光を云う也」などとあつて、飲光とは迦葉波(カショーバ)の漢訳であることが指摘されている。このことは唐の昔から知られていることで、種々の慈雲伝にも当然のごとく記されている。つまり、慈雲が自ら名乗ったと伝える諱・飲光とは迦葉の漢訳なのである。

このことの意味について三浦康廣氏は「釈迦第一の弟子に挙げられ、法を伝授された迦葉(=飲光)の名を諱とされていることは、尊者が「釈尊の直弟子」を以て自任した志を明白に物語っている」とする(同氏編著『慈雲尊者墨蹟集成 解説編』思文閣出版、1989年)。このように、慈雲尊者の諱が飲光であること、またそれが釈迦の高弟・迦葉の漢訳であることは先学諸氏がすでに指摘するところで、ここで改めて主張すべき新発見でも何でもない。しかし、あえて紙幅を費やしてそのことを強調するのは、慈雲尊者の戒律復興運動、とくに美術史に関わる場所では『方服図儀』に代表される袈裟研究と『梵学津梁』一千巻に大成された梵



図1 紙本墨書《満足》 慈雲筆 大阪中之島美術館蔵(当館寄託)

字悉曇学研究とは、慈雲がこの飲光なる諱を自ら選んだという強い意思表示と深く関係すると考えるからである。

慈雲尊者は「弘法大師の再来」と呼ばれ、また「小釈迦」と呼ばれた。かの高楠順次郎に至っては「今釈迦」とまで呼ばれたことを示して尊んだ。真言僧として、あるいは

仏僧としてこれ以上の榮譽はないだろう。ところが、慈雲尊者自身は日本の迦葉たらんとしたのではなかったか。名は体を表すものだとすれば、慈雲の根幹となる信条をそこに見るべきである。そのことを改めて認識する必要があるのではないだろうか。慈雲尊者の梵字・袈裟の研究をはじめ戒律の復興といった活動は、すべてこの仏弟子としての強い自覚、しかも弥勒当来まで衣鉢を受け継ぐ迦葉たらんとした自覚の上に立つことを知る必要があるのではないだろうか。

単純化は捨象を生む危険な行為である。慈雲の思想と行動とをすべて迦葉と結びつけて解釈することは慈雲の幅広い活動をかえって矮小化しかねない。しかし、頭陀第一の仏弟子として釈迦の衣鉢を継ぎ、仏滅後の僧団をまとめた迦葉の功績を讃えた慈雲は、飲光と名乗り日本の迦葉たらんとしたのである。とすれば、果たして日本の仏僧のうちここまで仏弟子であろうとしたひとがあつただろうか。

実は、慈雲が飲光という諱を名乗った時期や契機、選んだ典拠などについては明確なことが分かっていない。ここで述べたようにこのことが慈雲の様々な活動の根幹にかかわる問題として考えられるならば、今後探求しなければならない大きな課題が残されていることになる。

ところで、上掲の《満足》ははじめ慈雲作品などを所蔵する大阪中之島美術館が慈雲尊者生誕の地である中之島にオープンする予定である。作品は衣鉢よろしく新館へと引き継がれることとなる。いわば里帰りに文字通り「満足」してくれるだろうか。これは遠い未来ではなく、来春の話である。

(児島大輔)



図2 同部分 落款印「苾芻迦撰波」

European Masterpieces from The Metropolitan Museum of Art, New York

# メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年

2021年11月13日(土)―2022年1月16日(日)

主催:大阪市立美術館、メトロポリタン美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪

The Exhibition is organized by The Metropolitan Museum of Art, New York.

※東京・国立新美術館にも巡回予定



ヨハネス・フェルメール 《信仰の寓意》  
1670-72年頃 油彩、カンヴァス 114.3 × 88.9 cm メトロポリタン美術館  
Lent by The Metropolitan Museum of Art, The Friedsam Collection, Bequest of Michael Friedsam, 1931

世界三大美術館のひとつで、創立150年の歴史を持つニューヨーク・メトロポリタン美術館。その西洋絵画コレクションから名品65点(このうち46点は日本初公開)をまとめて紹介するかつてない展覧会です。

ラファエロ、ティツィアーノ、カラヴァッジョ、ジョルジュ・ド・ラ・トゥール、レンブラント、フェルメールから、マネ、モネ、ルノワール、ゴッホまで、誰もが知る画家たちの珠玉の名作で、ルネサンスから19世紀まで、西洋絵画史500年の流れをたどります。



カラヴァッジョ(本名 ミケランジェロ・メリージ) 《音楽家たち》  
1597年 油彩、カンヴァス 92.1 × 118.4 cm メトロポリタン美術館  
Lent by The Metropolitan Museum of Art, Rogers Fund, 1952



オーギュスト・ルノワール 《ヒナギクを持つ少女》  
1889年 油彩、カンヴァス 65.1 × 54.0 cm メトロポリタン美術館  
Lent by The Metropolitan Museum of Art, The Mr. and Mrs. Henry Littleton Jr. Purchase Fund, 1959



ジョルジュ・ド・ラ・トゥール 《女占い師》  
おそらく1630年代 油彩、カンヴァス 101.9 × 123.5 cm メトロポリタン美術館  
Lent by The Metropolitan Museum of Art, Rogers Fund, 1960

特集展示

いぐちこきんどう  
井口古今堂と近代大阪

— 船場の表具師と芸術ネットワーク —

2021年9月4日(土) - 10月24日(日)

井口古今堂は、天保元年（1830）曾根崎に創業し、慶應年間から船場を拠点として5代にわたって活躍した表具の老舗です。住友家、藤田家をはじめ在阪名家の仕事を多数手掛けました。またみずからも画事、煎茶、俳諧などひろく文芸に通じ、コレクターや船場の画家たちが出入りする文化サロンとしての役割をも演じました。近年の調査の成果を踏まえ、井口古今堂を中心とした近代大阪の芸術文化の躍動をご紹介します。



長尾雨山《行書古今堂》扁額 昭和14年(1939)



井口邨僊・上島鳳山・山田秋坪・  
岡本大更・北野恒富・水田竹園  
《大津絵寄書屏風》 明治～大正時代



上田耕甫(琴浦桐山窯)《山津波茶碗 銘霖雨》  
昭和13年(1938)  
六甲の山津波の際、須磨の住友本邸に流入した  
土砂で制作した。



(伝)易元吉《白鷺図》 清時代  
本館蔵(阿部コレクション)  
井口古今堂による表装。

社寺縁起 — 聖なるファンタジー

2021年9月4日(土) - 10月24日(日)

社寺草創の由来、祀られた神仏の靈験を語るさまざまな社寺縁起関連作品を、館蔵および寄託作品あわせて大公開します。神仏と人との間に起こった摩訶不思議な出来事＝聖なるファンタジーの世界をどうぞお楽しみください。



《大寺縁起絵巻》巻下(部分) 江戸時代・17世紀 本館蔵(田万コレクション)



狩野永納筆《管生宮縁起絵巻》巻下(部分) 延宝8年(1680) 大阪・管生天満宮蔵

## 所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館の所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設へお問い合わせください。

上村松園《晩秋》(住友コレクション) 京都市京セラ美術館(左京区) 2021年7月17日(土)～9月12日(日) 開館1周年記念展 上村松園	
燕文貴《江山楼観図》(阿部コレクション)ほか 計40件 國立故宮博物院(台北市) 2021年7月24日(土)～9月21日(火) 遺珠 - 大阪市立美術館珍藏書畫 -	
橋本閑雪《唐犬》 府中市美術館(府中市) 2021年9月18日(土)～11月28日(日) 開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり	
《雑技図画像博》(山口コレクション) 大和文華館(奈良市) 2021年10月9日(土)～11月14日(日) 特別展 天之美祿 酒の美術	

## 大阪市立美術館 大規模改修に伴う長期休館のご案内

大阪市立美術館は、昭和11年(1936年)の本館建設から85年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいます。このため、耐震補強および設備の全面更新等の大規模改修を行い、施設の長寿命化を図ります。これに伴い、令和4年(2022年)10月から令和6年(2024年)度中(予定)まで全館休館いたします。

### <休館予定期間>

令和4年(2022年)10月から令和6年度(終期未定)まで(予定)  
 ※地下展示室は令和4年(2022年)4月から休館

### <休館期間中の連絡先>

移転先が決まり次第ご案内いたします

### <主な改修内容(予定)>

- 老朽化によるもの(耐震性向上、長寿命化対策)
  - 電気・衛生・空調設備等全面更新
  - 経年劣化改修(外壁、防水等)
- バリアフリー向上を図るもの
  - 館内を円滑に移動できる環境整備
  - エレベーターの大型化
- 機能向上を図るもの
  - 美術品収蔵庫の増設
  - 展示環境の改善
  - 教育普及エリアのリニューアル

### <その他>

●博物館学芸員実習生の受け入れにつきましては令和3年度～令和7年度まで停止させていただきます。



## 新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策にご協力ください

<以下に該当される場合はご来館をお断りいたします>

- 37.5℃以上の発熱やせきなど風邪の症状があるお客様
- ご家庭や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者、もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃるお客様
- 体調がすぐれないお客様
- マスクをご着用いただけないお客様
- 団体でご入場のお客様

<館内でのお願い>

- こまめな手洗いに協力をお願いします。各洗面所には液体石けんを、入口ほか各所に消毒液を設置しておりますので、ご利用ください。
- 近距離での会話は、飛沫感染の恐れがありますので、展示室内での会話はご遠慮ください。
- 展示室内の混雑を緩和するため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。また、過度な混雑が見込まれる場合は、入場をお断りする場合があります。

従来とは異なる新たな鑑賞スタイルでご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いたします。

### ◆表紙作品紹介

津高和一《季》1960年代頃 本館蔵

前衛書を思わせる黒々した筆触と、にじんでぼやけた色面を余白の中に浮遊させる津高和一(1911-95)の抽象画。信濃橋洋画研究所の出身では国際的に最も高い評価を受けた作家で、ジュンク堂書店ブックカバーのデザインでも知られます。

## 大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

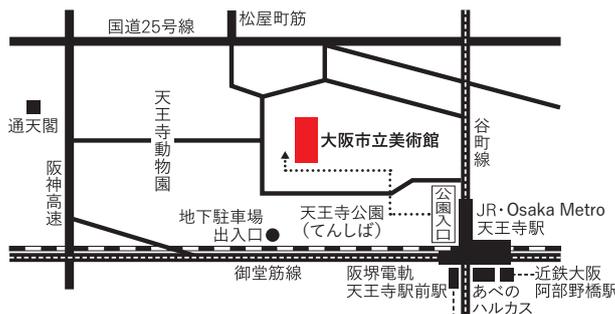
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間=9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日=月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m